



# 私のひとりごと

## 「限界集落」

東京では 45 年ぶりの大雪で、混乱している映像が報道番組で流れていた。27cm 積もったそうであるから大変な事は容易に想像でき、連日ニュースになるのも当然の事と思われる。私がかつて暮らしていた長崎でも、1cm も積もれば即座に交通がストップしていた記憶がある。これは「坂の街」と言われるほど坂が多い長崎ならではの出来事であるが、雪国育ちの私にとっては理解し難く「これ位の雪で…」と、どこかでバカにしていた様にも思う。今回、東京の大雪で被害に遭われた方には大変申し訳ないが、「たまには太平洋側の人にも雪で苦労してもらわないと」と、心底気の毒とは思えない自分が居る。情けない事ではあるが、どうやら私は我が身に降りかかって来ない事は、他人事に感じてしまう人間の様である。



そんな私の心を見透かしてか、ある番組の中で、「東京でも 4 人に 1 人が高齢者になる。」と言う。「えっ！東京でも…！？」と、その言葉に私は即座に反応した。それもそのはず、ちょうどその番組の 30 分程前に息子と住む場所について議論していた所であった。私の家は 200 戸足らずの山深い集落で、道路もこの村で行き止まりの為、将来の展望が望めない。保育所は既に廃校となり、小学校も来年度には廃校が決定している。今後、加速的に過疎化が進むものと思われる。また、自宅の目の前は急激な崖になっていて、急傾斜地崩壊危険区域に指定されているため自宅の建替えは絶望的である。数年前にも崖から大きな石が落ちてきて、自宅の外壁に大きな穴を開けられた。息子としては、「子供にとって危ないし、自宅も建替えできないし、今後この場所に住むことができるのだろうか？」と言う。もっともな意見で反論のしようがない。仮に息子が敦賀にでも新居を構えれば、その時点で私は、過疎化が進む集落で暮らす老人となるのは決定的である。お客様の夢を叶える仕事に携わっている私にとって、住む場所の選定が人の運命を左右する現実、深く、深く考えさせられる事となった。それでも、「まあ、良い…。成るように成る。」と自分に言い聞かせる。

東京に甚大な被害をもたらした雪も、冬季オリンピックの開催にとって恵とも言えるソチに降る雪も、どちらも同じように白い。天からのお与えは同じである。要は、こちらの心の持ち方次第と言うことであろうか。白といえば、結婚式に花嫁が着るウェディングドレスの白は、穢れのない清らかな心を表すそうだ。つまり、何色にでも染まることのできる白は、どの様な人や環境にでも適応することができることを意味する。どうやら私自身も、この厳しい現実に対応しなければならないようだ。

限界集落に住む老人…。それでも良いではないか。

ではまた来月もお会いしましょう。  
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう  
ございました!!

